2019年12月2日：更新

**ターミナルケア分科会　中間報告**

　川崎　光永

『看取りが標準化されたホーム形成』

**「看取りが標準化されたホーム形成」**とは、入居者がホームで最期を迎えられるその時まで自分らしく暮らせるよう、ホーム側が入居者の希望を出来る限りサポートしたり、入居者と家族の間に入って調整を行ったりと、看取りを安らかに迎えるための「ターミナルコーディネーター」を

ホーム内に常勤することです。

そのためには予算的な問題があるので、一時的な外部サービスを利用することや、ボランティアの協力も検討材料に入れ、具体的にどう実現できるかは分科会の後半の課題としてゆきます。

今回の分科会を進めるにあたり、前回（2016年）のモデルプロジェクト**「vision2030」**におけるターミナルケアの議論と重なる部分が多い事が分かりました。

よって、前回プロジェクトの6つのポイントをベースとし

**「看取りが標準化されたホーム形成」**に必要なことを追記して纏めました。

（1）高齢者住宅内でのサービス内容

ホーム内外を問わず、入居者や家族が満足してもらえる環境を作るためのサービスや取組を提案します。

・看取り士との提携

・定期的な交流の場の提供。経験者との交流

（2）ハード

ターミナル期を過ごす入居者だけでなく、家族にも安心して過ごしてもらえる空間やそれをサポートする設備が必要です。

・レンタルサービスの導入

　　家族使用のベッド、椅子、趣味用品、通信セット、カラオケ、家具、プロジェクター、ヒーリングミュージック、近親者向けゲストルーム

　　※備品としては施設が用意（有料か無料かは施設次第）

（3）社会インフラ・システム

社会インフラやシステムの充実は、高齢者住宅内でのターミナルケアの推進にもつながります。

・遠隔システムの導入

遠隔通信システム、Wi-Fi環境、バーチャル（３D）人物、故郷を映し出す。

（4）医療

ターミナルケアには入居者の希望に沿った医療の提供が必要です。

・医療の見える化。

　　入居時のターミナルルコーディネーターのヒアリング情報をもとに本人の意思を尊重

・バーチャル医療の提供

　もっと身近な医療サービスも必要なので、ＩＯＴの活用も必要

（5）職員・スタッフ

人手不足が顕著となりホーム側で入居者のニーズをすべて叶えることが難しくなっています。柔軟にホーム外の人達と協力していきます。

・ボランティアの受け入れ

・家族のサポート

（6）本人・家族

より良い最期を迎えるためには事前の準備が大事となります。入居者、家族の心構えについて提案します。

・勉強会（ターミナルについて）への参加